

日光国立公園「那須の森(仮称)」保全整備構想のポイント

(1) 基本的な方針

- ・自然体験、自然学習、自然と人間との共生のあり方を学ぶ場とする。
- ・自然特性を踏まえたゾーン区分とし、保全整備する。
- ・自然環境モニタリングを実施し、成果を管理等に反映する。
- ・二次林の維持管理のための能動的管理を行う。
- ・自然ふれあい推進の指導者養成の全国的な拠点として整備運営を図る。

① 保全に係る事項

- ・自然環境の状況を踏まえ、自然性の高い地域は自然の推移に委ねつつ、利用のコントロールを行うとともに、二次林については能動的管理を導入。
- ・外来生物の侵入防止に特に留意。
- ・「モニタリングサイト1000」のサイトを設定し、必要な調査を実施。

② 利用に係る事項

- ・深い自然への知識、体験を得ることのできる機会を提供。
- ・里山林について学び、体験することにより、人と自然との共生のあり方を体験できる場を提供。
- ・子供たちが、自然を五感で感じ、行動する機会を提供、学校教育との連携。
- ・環境影響配慮の徹底、ガイドシステムの導入等を行う。

(2) ゾーニングと各ゾーンごとの保全整備の方針（別紙）

- ・自然環境の特性を踏まえたゾーン区分(3つのゾーン)とそれぞれの保全整備方針の設定。
 - 上部ゾーン(テーマ「森に憩う」)
現状維持を基本とし、既存歩道の適切な活用を図る。
 - 中部ゾーン(テーマ「森を体験する」)
活動的な自然体験、二次林の自然観察、能動的な森林管理の場とする。
 - 下部ゾーン(テーマ「森を知る」)
自然性の高さを活かした自然観察、エコツアーのフィールドとして利用する。
 - 那須ゲート・エリア
地域の入り口に当たるエリアには、ビジターセンター等地域の利用と管理の拠点の整備を行う。
 - 余笹川沿いの自然性の高いブナ林については、保全に十分に留意。

(3) 管理運営に係る基本的な方針

- ・総合的な地域の管理運営を担う体制の整備
- ・自治体、地元関係団体を含む連絡協議会等の連携協力体制の整備
- ・指導者養成のナショナルセンターを目指し、環境教育関係団体との連携
- ・人材、資金等の支援・協力のための全国的枠組みの検討
- ・NGO、ボランティアの参加確保